

【活動名】 トキに関するフィールド調査及び普及啓発教材等の作成

【学校・団体名】 石川県立羽松高等学校 トキ研究グループ

(様式第8号)



活動の背景・目的

本校の2年生は「総合的な探究の時間」において、「ふるさと学習教材」の開発に取り組んでいる。世界農業遺産「能登の里山里海」について学習した折、能登復興のシンボルとしてのトキの存在を知った。また、学校が所在している羽咋市は、トキの放鳥候補地に選定されており、市内には石川県トキスーパーバイザー村本義雄氏が存在している。村本氏へのリサーチから「トキかるた」を作成し、将来的には地域でのトキの普及啓発の一助となればよいと思い、本活動に取り組むこととなった。

活動内容

- ①8/2リサーチ：国際朱鷺保護交流資料館にて村本義雄氏からトキについて
- ②8/20リサーチ：LAKUNAはくいにて、村本義雄氏、地元小学生とかるた体験
- ③9～10月「トキクッキー型」考案：アイシングクッキー教室たまゆら主宰畠山典子氏の監修
- ④10～11月「トキかるた」試作およびモニタリング：11/2中間発表、仮設住宅にて（左図）
- ⑤12/14活動発表：県主催「トキこどもフェスタ」にて
- ⑥12月1月「トキかるた」改良作業：小宮輝之氏から画像提供および解説により改良
- ⑦1～2月改良版「トキかるた」モニタリング：1/22探究最終発表後、市内外の高齢者施設等にて
- ⑧2/19「トキかるた」報告体験会：作成協力者および羽咋市立瑞穂小学校5年生(20名)が来校
- ⑨3/7～20（2週間）LAKUNAはくいにてパネル展示、来場者へのアンケート実施（回答数39）

11月 地域で
改良版トキかるた体験会

いろんな世代が
一緒に遊べる

小学4年生
ボランティアの若者（20代）
80歳のおじいちゃん

羽咋市応急仮設住宅眉丈団地



成果・感想

【「トキかるた」の効用と可能性】

- ・24枚中14枚が小宮輝之氏提供による貴重な写真を「取り札」にした。また、小宮氏からの説明内容を「解説」として「読み札」に載せたことから、トキの生態等について多くの人に「興味深い」としてもらえた。
- ・子どもから高齢者まで幅広い世代と一緒に遊べる。認知症の高齢者でも会話が增え、脳への良い刺激になることから、学校や福祉施設でのレクリエーション材として活用可能。

【クッキー型考案によるPR効果】考案した3種類のトキクッキーは、たまゆらのイベント出店において説明付きで販売されており、県内外で2026トキ放鳥in能登のPRに役立っている。今後は「クッキー型」も販売してみてもどうか。

【展示アンケートの反応と生徒の気づき】

- ・大学生からのアンケート回答とパネル展示の様子（右写真SNSに投稿したもの）
- ・感想の中に「トキのことを次世代に伝えたい」と思ってくれた人がいて嬉しい。
- ・「かるたをやってみよう」という回答が意外と多く、肯定的な意見が多かったのでやった甲斐があった。

トキが絶滅危惧種で天然記念物であることはなんとなく知っていたけれど、詳しい見た目や生態については知らなかったのでも勉強になりました。トキが乱獲や農地化など、様々な人間の活動の犠牲になっていることは胸に刻むと同時に今後伝えていく必要があると感じました。
私が所属する学生団体では羽咋市でイベント開催などのプロジェクトを行っているので、イベントの際のアイスブレイクとかで使えたら面白いかなと思いました！

